

国会通信

茨城選出の議員

北朝鮮問題への
関与の弱さ懸念

国民・藤田氏

国民民主党の藤田幸久氏(参院茨城)は15日、参院外交防衛委員会で質問に立ち、6月の米朝首脳による非核化や弾道ミサイル廃棄などの協議が進む中、日本が北朝鮮問題に深く関与し切れていないことに懸念を示した。

藤田氏は、一例として北朝鮮が北東部豊溪里の核実験場を廃棄する式典などの取材について、中国とロシア、米国、英国、韓国、メディアが許可されたことに触れ、「日本のメディアだけが認められていない。日

本が信頼されていないのではないかとただした。

河野太郎外相は、国際社会全体で北朝鮮と向き合っているとの反論。「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化(CVID)」を実現するため、「引き続き国際社会で一致して圧力をかけ、CVIDを実現するまでしっかりと見極めたい」と答えた。